

厚岸町海事記念館



通信

2009.5.

No.11

海事記念館特別展「海岸線のアイヌ語地名」を開催しました

海事記念館では、2月21日(土)から3月27日(金)まで特別展「海岸線のアイヌ語地名」を開催しました。北海道の地名のその語源の多くはアイヌ語に由来し、私たちの町にもアイヌ語地名が多く残されています。

会場には、近世期の絵図の写真パネルや明治・大正・昭和の地図などを展示し、アイヌ語地名の変遷を追いました。また、別海町郷土資料館所蔵の松浦武四郎が著した「東西蝦夷山川地理取調図」も展示することができました。松浦武四郎は、江戸時代末期の北方探検家として有名な人物です。弘化2年(1845)の蝦夷地渡航を皮切りに、幾度となく蝦夷地を訪れました。「東西蝦夷山川地理取調図」は、武四郎がおこなった蝦夷地の調査結果をもとに安政6年(1859)に著したものです。体裁は、彩色刷りの小判切り図になっており、全部で28冊からなっています。その内、厚岸を含んだ3冊を展示しました。厚岸町内、特に厚岸湖岸を含む海岸線づくりにアイヌ語地名が絵図上に詳しく記されています。現在では聞くことがほとんどできない地名も書き込まれてあり、おおまかではありますが場所を知ることができ、これらの点からも大変貴重な資料といえます。

現在、生活している私たちにとって、地名の由来を知ることが難しいと言えるかもしれません。しかし、地名一つ一つに由来があり、意味があります。今回の特別展が地名から町の歴史を紐解くきっかけになったのであればよいのですが。

なお、特別展の会期中に会場で配布した資料「アイヌ語地名文献対照表」もありますので、ご希望の方は、海事記念館までご連絡下さい。



会場風景

「東西蝦夷山川地理取調図」



〈お知らせ〉郷土館・太田屯田開拓記念館が開館しました!!

道東地方で早くから栄えた厚岸町の歴史を垣間見ることのできる厚岸町郷土館。明治期の屯田兵入植によって開拓の幕を開けた太田村の歴史を説明した太田屯田開拓記念館。皆様のおこしをお待ちしております。

開館時間 午前9時00分～午後4時00分

休館日 毎週月曜日、祝祭日の翌日、11月16日～4月15日

入館料 100円(高校生以下無料)

(なお、団体25名以上は1名60円)

文化財係 はじめての「文化財歴史教室」!!

3月27日(金)、第1回となる「文化財歴史教室」を本の森厚岸情報館において開催しました。これは、日頃、学芸員がどのような活動をしているのかを一人でも多くの人たちに知ってもらおう、知ってもらいたいという思いから企画したものです。

今回は、熊崎農夫博文化財係長(兼学芸員)と車塚洋学芸員の2名が報告しました。車塚学芸員からは「『厚岸かぐら』の変遷過程」と題して、厚岸町の無形文化財にも指定されている厚岸かぐらについて報告がありました。厚岸かぐらの概略を説明したのち、国の重要文化財にも指定されている「日鑑記」の記述を通して、江戸時代末の国泰寺境内において、主に正月2日に「獅子舞」や「獅子神楽」、「神楽(ヲドリ)」、「大神楽」、「萬歳神楽」と呼ばれる芸能がおこなわれていたこと、昭和9年に記録された厚岸かぐらの資料をもとに演目の変遷や大正4年から昭和9年にかけて休止期間があったこと、その後復活する際の要因として記念行事への出演やマスメディアなどの影響があったこと。そして、昭和10年代から30年代にかけて厚岸かぐらが主に民族学者の研究対象として注目されていく過程を指摘しました。

熊崎文化財係長からは、「町内の炭鉱跡確認調査」と題し、これまで2年間にわたって実施してきた糸魚沢炭鉱と上尾幌炭鉱の2つの炭鉱の確認調査の結果報告がおこなわれました。上



上村炭鉱選炭場(上尾幌)



会場風景

尾幌では大正時代に、糸魚沢では昭和のはじめ(昭和8年頃)に炭鉱での採掘が開始されました。特に糸魚沢においては明治期に試掘も行われていたようです(『厚岸町史』下巻、昭和50年)。昭和10年代、20年代と太平洋戦争や朝鮮戦争などの影響で需要が伸び、石炭は「黒いダイヤ」とも言われました。炭鉱で働く鉱夫の数も増え、住宅や浴場などいろいろな施設が作られていきました。しかし、その後のエネルギー革命により、石炭の需要が石油といった液体燃料へと取って代わると、その影響は昭和30年代、40年代の炭鉱閉山という形で現れました。糸魚沢と上尾幌の炭鉱も昭和30年代を境に閉山しました。報告では、すでに閉山から半世紀、約50年が経過した現在、この二つの炭鉱跡がどうなっているのか、現地の写真を交えて分かりやすく解説しました。

文化財係では、日頃、文化財の調査や新たな歴史資料の掘り起こし作業をおこなっています。今回の「文化財歴史教室」を通して、文化財や町の歴史への理解と関心を深めてもらえれば幸いです。

学芸員こぼれ話～石造物を調査します～

みなさん、町内に石でできた石碑や石像仏、記念碑などがどれくらいあるのか、ご存知でしょうか。現時点では、おそらく50基前後だと思われます。私自身、まだまだ不十分ですが、これまで町内の石造物を約40基確認してきました。神社やお寺、墓地、学校、路傍など、石造物がありそうな場所へ行き、また、いろいろな人の情報をもとに探し歩きました。

ところが、先日、驚くことがありました。それは、町内のある人のお宅に仕事で訪れた際、用事が済み、玄関を出た瞬間、植え込みの中に馬頭観音像があるじゃないですか。これまでも何回かお宅を訪問したことはあったのですが、全く気づきませんでした。像の背面を見たらちゃんと建立者の名前も彫ってあり、年代もわかるものでした。

これまで、私自身、町内で、個人の家で馬頭さん(馬頭観音像)などといった石造物を祀るという事例を知らなかったものですから、個人宅のものについては調査していませんでした。反省しております。

ということで、突然ですが、今年度から、町内にある石造物を調べる予定です。そこでお願いなのですが、みなさんからの石造物に関する情報をお待ちしております。現在確認できる石造物の情報はもちろん、昔、ここにこんな石碑があったよ、石像があったよという、過去の記憶の情報でもかまいません。もし、お気づきのことがありましたら、海事記念館までご一報を。よろしくお願います。

(担当:車塚 洋)



馬頭観音像(所在:厚岸町尾幌〔個人宅〕)

〈お知らせ〉プラネタリウム「春の星座とおとめ座の話」を投影中!!



海事記念館プラネタリウム室では現在「春の星座とおとめ座の話」を投影中です。北斗七星やおおぐま座・こぐま座といった春の代表的な星座についての解説や星座にまつわる神話のアニメーション「おとめ座物語」を上映しています。ぜひ、この機会に春の星座の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。

投影時間: 平日 15:30～

土・日・祝日 11:00～、13:30～、15:30～

観覧料: 海事記念館入館料のみ

(大人210円、高校生以下無料)



耕耘作業風景

今年も、港町アッケシソウ栽培地さいばいちでの耕耘作業こううんまぎょうの季節きせつがやってきました。今年は、4月17日(金)に耕耘機こううんきで土を掘り起こし、一日中、土との格闘かくとうでした。耕耘機こううんきの操作そうさは見るのとやるのでは大違いおおちが。石などが埋まっていることに気づかず耕耘機こううんきで土を起こそうものなら、機械きかいが暴れ出す始末しまつ。ちなみに、次の日は情けないことに背中一面筋肉痛せなか いちめん きんにくつうでした。

去年きょねんは、夏から秋にかけて雑草ざっそうが繁茂はんもしてしまい、雑草駆除くじょに追われる一年でした。今年ことしは、その反省はんせいを踏

まえて、耕耘すると同時に雑草の根も取り除き、雑草が出る前に先手を打つことにしました。当たり前のことですが、地道にやるしかないあらたと改めて思っています。

【参加者募集】

体験学習セミナー「大黒島海鳥繁殖地観察会」を開催します!!

文化財係では、下記の日程で、体験学習セミナーとして、国指定天然記念物「大黒島海鳥繁殖地」の観察会を開催します。大黒島南端部のトッカリ岩にいるゼニガタアザラシを観察したり、大黒島の海岸散策などを予定しています。ぜひ、この機会に大黒島で

日時：平成21年6月6日(土)午前9時から午後3時
(悪天候の場合は、6月7日(日)に順延とします)
集合場所：厚岸町海事記念館
対象：小学4年生以上(小学生には保護者が同伴してください)
定員：15人(応募多数の場合は抽選)
申込締切：5月31日(日)まで
参加料：2,000円(なお、別途保険料300円が必要です)
申し込み・問い合わせ：海事記念館文化財係 ☎52-4040

活動する野生生物を観察し、その保護・保存の重要性について理解を深めてみませんか。

編集後記

今回、紙面で石造物調査のお願いをしましたが、以前、ある町民の人から「昔、海に面したA家の敷地内に屋敷神のような石像が祀られていた」というお話を聞いたことがありました。何とか確認しようと、休日返上で笹藪を分け入り、鹿道を通り、やっとの思いでその跡地の手前まで行ったことがあります。残念ながらもう一步の所で、そこへ行くための斜面が崩落して確認することができませんでした。悔しいので、もう一度チャレンジしようと思っています。確認した時は、「通信」で報告しますね。(車塚)

「厚岸町海事記念館通信」第11号 2009.5.発行
【編集・発行】
厚岸町海事記念館
〒088-1151 北海道厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地
Tel/Fax (0153)52-4040